

歯科の急性疾患対応ばかりでなく

慢性疾患対応も、不要不急ではない理由

歯科の急性疾患対応と慢性的疾患対応について

■有病者、高齢者の口腔細菌数を管理すべき必要性■

口腔内の衛生状態が悪化することにより、口腔細菌数が増加 (1×10^8 cfu/ml 以上) するとウイルスの感染力が増し、ウイルス性肺炎や人工呼吸器関連肺炎 (VAP) を増悪させてしまいます^{1,2,3)}。とりわけ高齢者や基礎疾患がある場合、日頃から口腔細菌数を (1×10^6 cfu/ml) 程度にコントロールする必要があります。

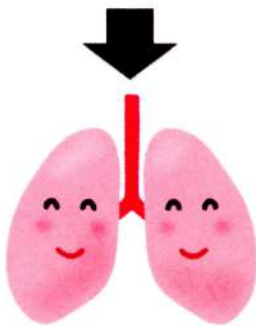
緊急時に人工呼吸器が装着される事態になった場合、人工呼吸器関連肺炎を引き起こすリスクが高まります。

コロナウイルス感染のレセプター (ACE2) は舌の粘膜に豊富にあり⁴⁾、経口感染には特に注意が必要です。歯科診療所での日頃の口腔ケアは、口腔細菌由来の肺炎を防止して新型コロナウイルス感染時の重症化予防につながると考えられます⁵⁾。

清潔な口腔



口腔内細菌が 1×10^6 cfu/ml 程度に
コントロールできている状態

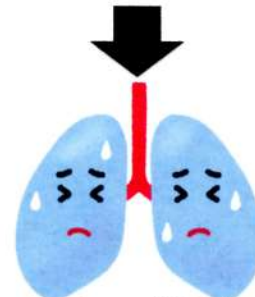


ウイルス性肺炎になっても
重症化しない

不潔な口腔



口腔内細菌が 1×10^8 cfu/ml 以上に
増加している状態



ウイルス性肺炎

+

口腔細菌によって肺炎が重症化する
人工呼吸器をつけられた後では口の
掃除は困難